

事業所名

児童デイサービス ちいろば

支援プログラム

作成日

2024 年

11 月

1 日

法人（事業所）理念		社会の一員として働き、余暇を楽しみ、自他を愛し、豊かな人生を育む子へ		
支援方針		ミニ集団の中で、社会性を育み、余暇の幅を広げ、個人の力を発揮し、時には他者の協力を得ながら、課題をやり通す力を鍛える。		
営業時間		(発達) 火～金 13:00-14:40 土 9:00-10:45 (放課後) 火～金 15:30-17:15 土 13:30-15:15	送迎実施の有無	あり なし
支 援 内 容				
本人支援	健康・生活	視覚的スケジュールを活用し、見通しを持って活動に参加する。 やらなければいけない事に先に取り組む力を鍛える。 生活の中に楽しみを見出し、余暇の幅を広げる活動を提供する。 来所時の物品の準備や、外出前のトイレなど、自分の身の回りのことを自分でできるようにする。		
	運動・感覚	毎回の活動で、体全体を動かすサーキットや、指先の巧緻性を高める描画やシール貼り、折り紙等をプログラムに取り込み、ボディイメージを高める。 また、季節を感じながらの田園散歩や、他児と音楽遊びを行い、五感を刺激し、感覚統合を促す。 ビジョントレーニングで、見なければいけないものに集中して見る力を鍛える。		
	認知・行動	認知のズレにより間違っと言動を起こした際には、個々に話の場を設け、適切な言葉遣い、行動を教える。 ビジョントレーニングを行い、物事を適切に見、得た情報を適切に処理する力を鍛える。 散策時には、生き物や植物、階段の段数など、身の回りにある物に目をやり、数量や色、物の名前等に触れ、親和性を高める。 学習支援、コグトレを通して、認知機能を高める。		
	言語 コミュニケーション	毎回の活動内で、児童一人ひとりに合ったワーク（机上課題）を設定し、少し頑張ればできる内容をやり通すことにより、読み、書き、計算、推論等の基礎的な学習能力を身に着け、自信を身に着ける。 活動の中で、子供自身が自分の気持ちに目を向け、職員が代弁したり視覚支援も用いりながら、言語化を図る。 SSTを通じて、皆の前で聴く、話す、知ることにより、自分と他者に気持ちを向け、伝える力を身に着ける。		
	人間関係 社会性	縦割りのミニ集団の中で、学年の違う友達を思いやったり、頼ることにより、他者との信頼関係を構築する機会を提供する。 他児との言葉でのやり取りの機会を設け、自分の気持ちや意思を伝え、他児の気持ちと意思も受け止め、時には相談や交渉の手段を用いることにより、社会性を高める。 他児とルールのある遊びをし、遵守性、協調性を育て、初めてのことにもやってみることで、余暇の幅を広げる。		
家族支援		送迎時や連絡帳にて、こまめに児童の困りごとへの相談を受ける。必要に応じて、懇談の場を設ける。困りごとに親が対処できるように、療育で行っている手段を伝え、家庭での取り組み方を考える。	移行支援	児童が在籍している学校、学童、保育園、幼稚園の大きい集団生活を尊重し、発達支援は平日は13時から、放課後は15時30分開始とする。送迎時やケース会議等で担当教員から児童の様子を聞き、困りごとへの相談を受け、対応を共有する。
地域支援・地域連携		ボランティアを受け入れ、得意分野を生かした関わりをしてもらう。	職員の質の向上	毎月、研修を行い、発達障害児に関わる情報を勉強したり、デイに通っている児童の状況や個別支援の目標等を共有する。職員が療育の相談できる場を設ける。また、外部研修や救命救急講習や避難訓練に参加する。
主な行事等		お楽しみ会、お別れ会、誕生日のお祝い、映画会、スイカ割り、焚火、水遊び、水切り		